

古 小 だ よ り

『勇気ある子ども』(全体目標)

○「自分で考える子」(知)

○「思いやりのある子」(徳)

○「たくましい子」(体)

「もう少しやってみよう」を大切に

校長 島 朋 朗

長い夏休みが終わり、20日から2学期が始まりました。久しぶりに子どもたちの元気な声が学校に戻ってきたことを、大変うれしく思います。ご家庭での夏休みの生活や様々な経験を通して、心も体も一回り成長したことと思います。

2学期は、一年間の中でも子どもたちが大きく成長する時期です。学習では、これまでに身に付けた力を生かしながら、さらに難しい内容に挑戦します。また、学習発表会、各学年の様々な活動など、友達と協力し、一つのものをつくり上げる機会も多くあります。

そんな2学期に、子どもたちに大切にしてほしいのが、「すぐにうまくいかなくても、もう少しやってみる」という気持ちです。

1学期の終業式で、私は子どもたちに「やるべきことをしっかりやる」ことについて話しました。その中で、時には「我慢すること」も必要であり、その我慢する力は、これから社会の中で生きていくためにも大切になることを伝えました。

我慢するというのは、ただ嫌なことを無理にさせることではありません。やりたいことを少し後回しにしてやるべきことに取り組むこと、苦手なことから逃げずにもう一度挑戦すること、思い通りにならないときに感情のまま行動せず、一度立ち止まって考えること。そうした小さな経験の積み重ねが、自分自身を支える力になっていきます。

勉強が難しくて「もうやりたくない」と思うこともあるでしょう。練習してもうまくできず、「もうやめたい」と思うこともあるでしょう。友達との関わりの中で、思い通りにならないこともあるでしょう。そんなとき、「もういいや」とあきらめるのではなく、「もう少しやってみよう」と自分を励ますことが、子どもたちの成長につながります。

こうした力を育てるためには、学校だけでなく、ご家庭での関わりも大きな意味をもっています。

子どもが「できない」「やりたくない」と言ったとき、保護者の皆様も、どこまで頑張らせればいいのか迷うことがあるのではないのでしょうか。「無理をさせたくない」「つらい思いをさせたくない」と思うのは、子どもを大切に思うからこそです。

もちろん、子どものつらさや困り感を無視して頑張らせることがよいわけではありません。困ったときには、周りの大人に相談し、助けてもらうことも大切です。一方で、すぐに大人が答えを出したり、困らないように先回りしてしまったりするのではなく、「もう少しだけやってみようか」「一緒に考えてみよう」「失敗しても大丈夫だよ」と背中を押すことも、子どもの成長にとって大切な支援だと思います。

子どもたちがこれから社会に出たとき、いつも自分の思い通りになるわけではありません。苦手なことに向き合わなければならないときも、思い通りにならないこともあります。そんなときに、自分の気持ちをコントロールしながら、やるべきことに向かい、必要なときには人に助けを求めることができる。そうした力を、今の学校生活や家庭での毎日の積み重ねの中で育てていきたいと考えています。

学校でも家庭でも、「失敗しても大丈夫。もう一度やってみよう」「自分で決めたことは、最後までやってみよう」という言葉を大切にしていければと思います。家庭と学校が同じ方向から子どもたちの背中を押すことで、子どもたちは安心して挑戦することができます。

私たち教職員も、子どもたちの小さな変化や頑張りを見逃さないように、一人一人の成長を支えてまいります。2学期が、子どもたちにとって「できるようになった」「頑張ってよかった」と実感できる時間となるよう、学校と家庭、地域が力を合わせて教育活動を進めていきたいと思っています。

2学期も、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



